dCS

Paganini

Transport

Upsampling CD/SACD Transport

取扱説明書

株式会社太陽インターナショナル
〒 103-0027 東京都中央区日本橋 2-12-9
日本橋グレイス 1F
Tel : 03-6225-2777 Fax : 03-6225-2778
<URL> http://www.taiyo-international.com

目次

ご使用になる前に（安全にお使いいただくために）.....3

初めてのパガニーニ・トランスポート.....4

梱包.....4
安全のための注意.....4
AC 電圧設定.....4
電源ケーブル.....4
メインコンディショナー.....4
設置.....5
使用可能ディスク.....5
使用不可能ディスク.....6
レーザー放射の危険について.....6
結露について.....6

セットアップガイド.....7

表示、フォントの意味.....7
最初に.....7
リモートトランスミッターに電池をセットする.....8
STEP 1：デジタル出力の選択.....9
1394 インターフェイスケーブルの接続.....9
シングル AES、SPDIF の接続.....9
デュアル AES 出力をヴィヴァルディ モードで使用する.....10
STEP 2：Sync モードの選択.....11
DAC をマスターモードで使う.....11
マスタークロックを使用する.....12
STEP 3：ディスクの演奏.....13
STEP 4：その他の機能.....13

フロントパネル.....15

リアパネル 17

リモートコントロール 19

ソフトウェア―メニュー 20

メニューの使用 21

INFORMATION メニュー 22

TRANSPORT SETTINGS メニュー 22

DISPLAY SETTINGS メニュー 23

SIGNAL GENERATOR メニュー 23

メンテナンス 24

ヒューズの交換 24

ヒューズを交換する 24

保証 25

使用環境 25

ソフトウェア・アップデート 25

仕様 26

問い合わせ先 27

ご使用になる前に（安全にお使いいただくために）

本機をご使用になる際には、安全上のご注意をよくお確かめ下さい。
以下の注意事項は安全にお使いいただくために大切な内容です。必ず守るようにして下さい。

⚠警告：誤って取り扱うと、死亡や重傷などに結びつく可能性があります。

⚠注意：誤って取り扱うと、傷害または物的損害などの発生に結びつく可能性があります。

［設置上のご注意］

⚠警告

・定格電圧AC 100V にてご使用下さい。
・付属の AC 電源ケーブルは、本機専用ケーブルですので他の機器に使用しないで下さい。
・ケーブル等の接続はこの取扱説明書に従って確実に行って下さい。不完全な場合には接触不良を招き、火災の原因になります。
・AC電源ケーブルをコンセントから抜くときは、プラグを持って抜いて下さい。コードを無理に引っ張ったりして抜くと断線または接触不良を招き、感電や火災の原因になります。
・AC電源ケーブルを無理に折り曲げたり、引っ張ったり、ねっじったり、継ぎ足す等の加工は行わないで下さい。火災や感電の原因になります。
・本機の改造や部品の変更は絶対しないようにして下さい。火災や感電、故障、ケガの原因になります。
・水など塗れた手で電源ケーブルを抜き差ししないで下さい。感電の原因になります。
・本機内部に水をこぼしたり、ピン等の金属類を入れないで下さい。感電や火災の原因となります。
・万一、煙が出たり変な臭いがするなどの異常状態が起きた場合は、すぐにAC電源ケーブルを抜き、異常状態がおさまったことを確認してからお買い求めの販売店、または当社サービス課まで修理を依頼して下さい。そのまま使用すると、火災・感電の原因になります。

⚠注意

・本機を設置する際にはこの取扱説明書に従って確実に行うようにして下さい。
・本機の取り出し、及び設置する際には細心の注意をし、慎重に行うようにして下さい。落下等でケガや物損を招く原因になります。
・湿度の多い場所で使用しないで下さい。結露等により故障の原因となります。
・ゴミやホコリの多い場所では使用しないで下さい。
・室内温度が5℃～40℃の範囲でご使用下さい。
・振動が多く、水平でない場所には設置しないで下さい。機器の落下等でケガや物損を招く原因になります。
・オーディオラック等に納めてご使用になる場合、通風をしっかり取るなど熱のこもりには充分注意して下さい。故障の原因になる場合があります。

［お手入れについて］

・本体の汚れは、柔らかい乾いた布（シリコンクロス等）で軽く拭き取ってください。ベンジンやシンナーなど揮発性の薬品のご使用は、絶対におやめください。本体の表面が変質する恐れがあります。

⚠注意

・リアパネルの端子等のお手入れの際には、必ずAC電源ケーブルを抜き電源をお切り下さい。感電の原因となることがあります。

初めてのパガニーニ・トランスポート

使用前に本項および「セットアップガイド」（P.6）をぜひお読みください。効率的にかつ安全にシステムを設定するのに役立ちます。

将来 dCS は必要に応じソフトウェアを更新しています。本機は CD-ROM によって、ご自身でアップデートできるように設計されております。ソフトウェアが更新されたときに、ご連絡いたしますので、保証登録は必ずしてください。

梱包

本機の梱包には下記の物が入っています。

・パガニーニ・トランスポート本体
・取扱説明書
・保証登録書
・パワーケーブル
・IEEE 1394 ケーブル
・BNC ケーブル
・ヒューズ（スペア）
・リモートトランスミッター

上記リストに照らし合わせて内容を点検ください。損傷があったり、部品の欠品があった場合にはすぐに販売店にお知らせください。本機の梱包材は箱を含め保管なさることをお願いします。
本機の保証書は保証登録書での登録後、お手元にお届けいたします。

安全のための注意

本機のサービス用パーツは供給されておりません。ユーザーご自身で本体の分解、または内部を開けることなどは危険です。本機自体が不具合である場合には販売店にご相談ください。

AC 電圧設定

初めて本機をセットするとき、ご使用の電圧と合致しているか再度ご確認ください。本機は 50 ／ 60 サイクルどちらにも対応します。リアパネルの AC 入力部の下に電圧表示があります。万一ご使用の電圧と表示が異なる場合には決して本機をご使用しないで下さい。電圧が異なる場合、致命的な損傷を本機に与えかねませんし、保証の対象外となります。また電圧変更をご自身でなさらないでください。

電源ケーブル

常識的な AC ケーブルをご使用ください。一部のオーディオファイル用パワーコードは必要以上に重く、入力部を破損しかねません。この場合には保証対象外となりますので、十分ご注意ください。

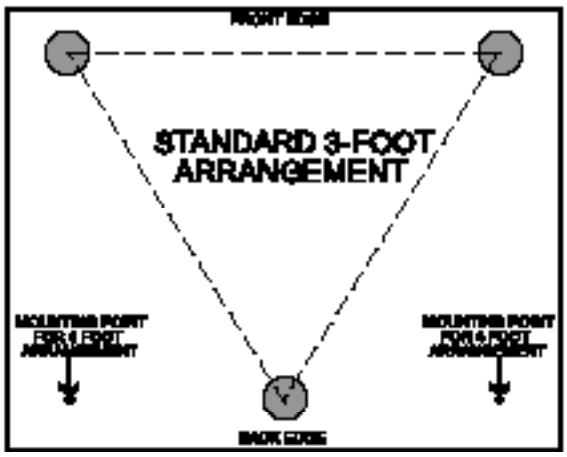
メインコンディショナー

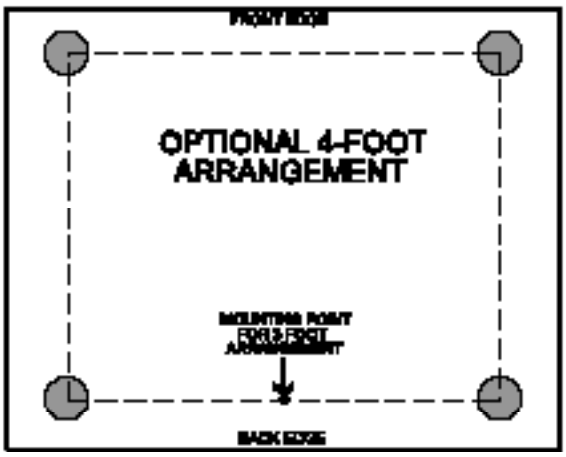
メインコンディショナー、クリーン電源等の使用は推奨いたしません。メインコンディショナー、クリーン電源等の使用によって本機が故障した場合、保証対象外となりますのでご注意下さい。

設置

パガニーニシリーズは積み重ねて使用することは可能ですが、一台ずつラックで使用したほうがより良い音質が得られます。しっかりした、振動しない棚板に載せ、他のシステムとの接続にはケーブル類はある程度の余裕を持って接続してください。またオーバーヒートを防ぐために本機の周囲には適度なスペースを空けることを心がけてください。

パガニーニシリーズは3個の足が標準で付いています。オプションで4点にすることも可能です。
ご必要であれば、販売店もしくは当社までご連絡下さい。





使用可能ディスク

次の商業的に製造された CD を再生することができます。

- 12cm または 8cm の円形ディスク
- リニア PCM デジタルオーディオデータで録音されたディスク
- 「レッドブック」規格に沿って製作され、左のロゴが付いたディスク

次の商業的に製造されたシングルレイヤー SACD もしくはハイブリッド SACD/CD を再生することができます。

- 12cm または 8cm の円形ディスク
- SACD レイヤーが DSD デジタルオーディオデータで録音されたディスク
- 「スカーレットブック」規格に沿って製作され、左のロゴが付いたディスク

CD-R
CD-RW

CD フォーマットのオーディオデータで記録された CD-R または CD-RW ディスクは再生できるかもしれませんが、不具合等起きても責任は負えませんのでご了承下さい。

使用不可能ディスク

下記のディスクを使用して不具合等起こった場合は責任を負えません。

・傷、汚れ、湾曲したディスク
・プリンタブルディスク、ラベルの貼ったディスク
・DVD、CD-G、CD-EXTRA、PHOTO CD、CD-ROM、DVD-ROM
・「レッドブック」CD 標準に従わないコピー保護されたディスク（たとえば CCCD 等）は、正しく演奏しないか、まったく演奏しないかもしれません。

レーザー放射の危険について

パガニーニ・トランスポートは US FDA21CFR 項 J. をクリアするクラス1レーザー製品となっています。通常の使用においては、レーザー放射による危険はありません。

重要：本機は dCS の認定したサービスのみ修理、メンテナンスが許可されています。ユーザーご自身で本体の分解、または内部を開ける作業はしないでください。

結露について

本機が冷たくて、暖かい部屋に持ち込まれた場合、結露がおきます。結露がおきますと正常な動作をしません。結露がおきたと思われる場合は、室温の場所で 1 ～ 2 時間スタンバイにしておいてください。

セットアップガイド

基本的な動作のためのセットアップガイドです。

表示、フォントの意味

この取扱説明書で使用されている文字色は、下記の内容を示しています。

- 青：コントロールとコネクターについての記載
- ピンク：メニュー、またはセッティング
- グリーン：ディスプレイ表示

最初に

本項はメニュー構造詳細についてのチャートと、一般的なセットアップを説明します。

デジタルインターフェイスについては、デジタルオーディオ用にきちんと設計されているケーブルをご使用ください。

- AES/EBU インターフェイスには 110Ω、ツィステッドペア、XLR(M)-XLR(F) コネクターをご使用ください。
- ワードクロックインターフェイスには 75Ω コアキシャル BNC ケーブルをご使用ください。
- SPDIF RCA インターフェイスには 75Ω コアキシャル RCA プラグで端末処理されたケーブルをご使用ください。
- IEEE1394 インターフェイスには IEEE1394 ケーブルをご使用ください。本機に付属しています。

まず使用システムの電源を入れます。

本機リアパネルの電源入力に付属の電源ケーブルを接続し、電源を入れる準備をします。

重要：必要以上に重く太いケーブルは入力ソケットを損傷する場合がありますので、ご使用にならないで下さい。この場合の入力ソケットの損傷は保証の対象外です。

リアパネルの電源スイッチを | の位置にセットします。Power ボタンを押すと約 30 秒間で本機はセルフチェックを行います。ディスプレイは次の順で表示されます。Paganini Transport 次に No Disk

もし本機が上記の表示がさない場合には、次の手順でリセットします。

Menu ボタンを一回押し、次に→ボタンを 1 度押します。続いて Menu ボタンをもう 1 度押すと、Transport Setting メニューが表示されます。←ボタンを何度か押し、Factory Reset メニューを呼び出します。Menu ボタンを押し数秒待ちますと、本機は自動的にリセットします。

リモートトランスミッターに電池をセットする

（1） コインなどを使用してリモコン本体のねじを開けます。
（2） ねじを少し持ち上げ、裏蓋をスライドさせます。
（3） 単３電池を +/− を正しくセットします。
（4） 裏蓋をスライドさせ、締めます。

リモコンがバッテリーを装着しても動作しない場合には、バッテリーの極性を確かめてください。
電池の +/− を間違えて装着するとリモコン本体を損傷することがあります。
極性の間違いによる損傷は保証期間中でも保証対象外となりますので、慎重に電池を装着してください。

STEP 1：デジタル出力の選択

CD、SACD どちらをお聴きになる場合でも 1394 インターフェースで DSD データ、CD フォーマットデータを送り出します。ほとんどの方は 1394 ケーブルのみで結線されますが、本来の CD データ（16 bit/44.1kS/s）を好まれる方もいらっしゃいます。

1394 インターフェイスケーブルの接続

・トランスポートの 1394 出力の一方と DAC の 1394 入力を結線します。同時にトランスポートの W/CLK Out と DAC の W/CLK In とを結線します。

・DAC の Input ボタンを押し、dCS PTT または 1394 入力を選択します。

DAC は Wait..., No-WClk、または Search..., と表示することもあります。これはユニットがセッティングを行っていることを表しています。その後次の順に表示します (Clk OK), Locking, No Audio。DAC の 1394 端子にもう1台の dCS トランスポートを接続している場合は、DAC の Input ボタンによってもう一方の 1394 入力を選択してください。Easy Play メニューが Full にセットされている場合には、トランスポートは DAC を 1394 入力に切り替えます。

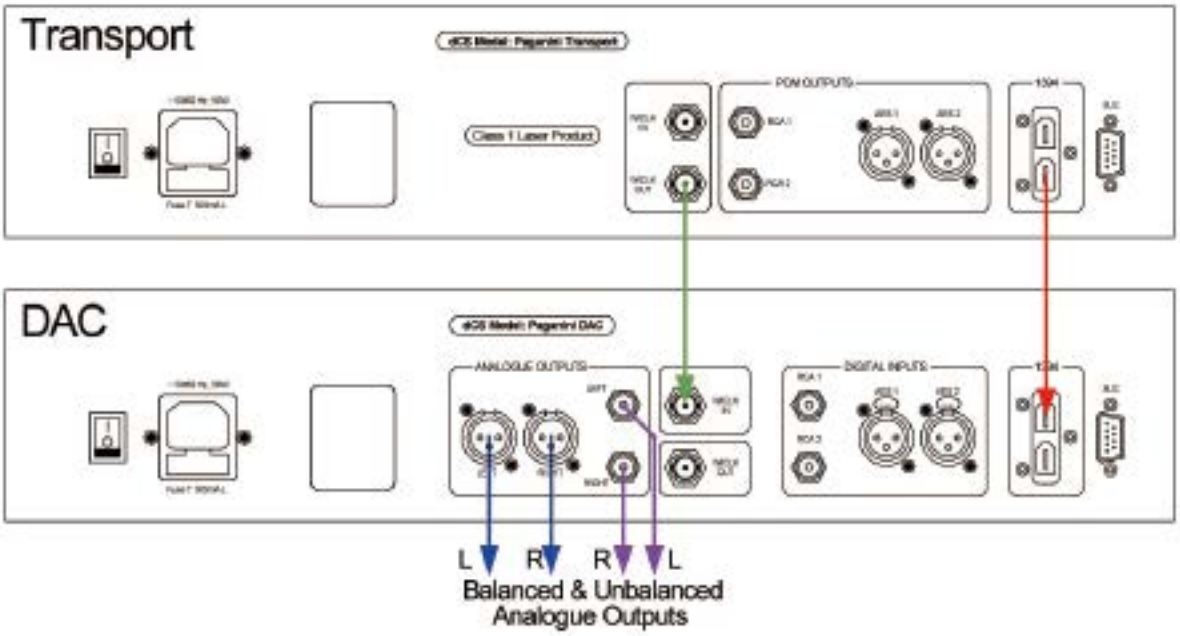


図 1：基本のセットアップ

シングル AES、SPDIF の接続

・トランスポートの出力から DAC の入力に結線します。

・DAC の Input ボタンを押し、出力とマッチする入力を選択します。AES1、AES2、RCA1、RCA2 のどれかです。

DAC は入力ソースとロックします。ディスプレイは (44.1k), Locking, 16/44.1 の順に表示します。

デュアル AES 出力をヴィヴァルディ モードで使用する

ヴィヴァルディシリーズはデュアル AES を使って DSD データをユニット間で送ります。1394 は使用しません。

パガニーニトランスポート v1.10 は二つの AES 出力を介して、デュアル AES として DSD データを送れるようにアップデートされました。パガニーニシステムをご使用になってもヴィヴァルディ DAC を導入なさってもネィティブ DSD フォーマット、アップサンプルされた DSD フォーマットで問題なく使用できます。パガニーニ DACv1.30, スカルラッティ DAC v 1.30 も同じようにヴィヴァルディモードでご使用いただけます。

- メニューページでトランスポート設定をヴィヴァル ディーモード（Settings > Vivaldi Mode）オン（On）にします。
- トランスポートの AES 1 &2 出力を DAC の AES1 & 2 にそれぞれ接続します。
- DAC のワードクロック出力 (WClk Out) を トランスポートのワードクロック入力 (WClk In) に接続します。
- DAC の入力をデュアル AES (Dual AES) に設定します。

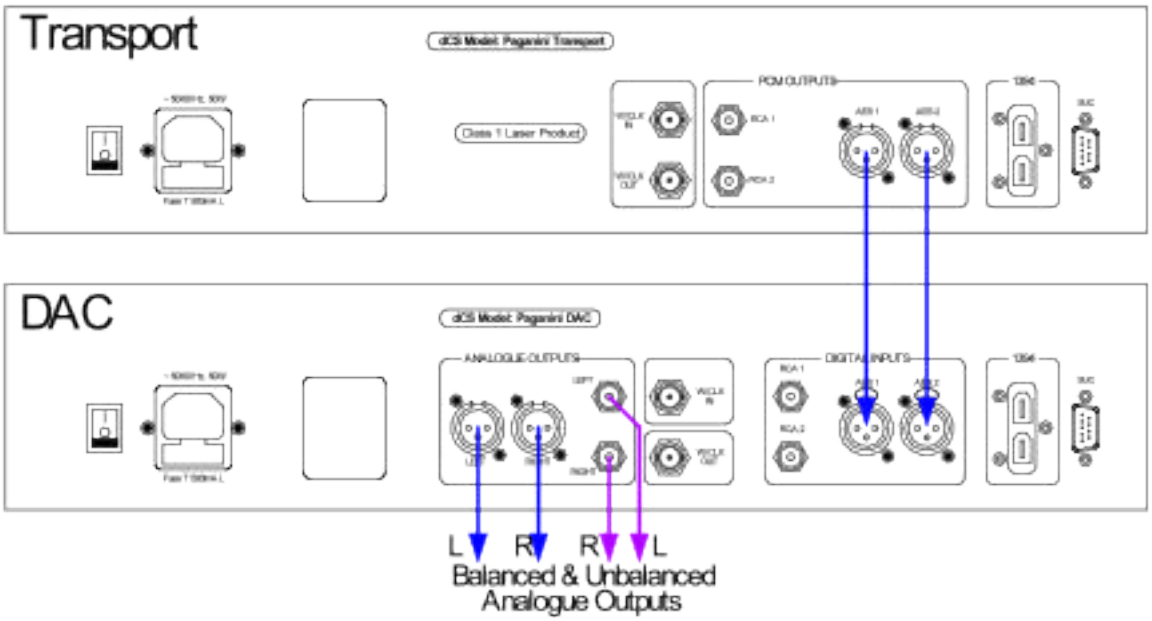


図 2：パガニーニトランスポートをデュアル AES、ヴィヴァルディモードで DAC に接続

DAC はトランスポーとロックしディスプレィには DSD と表示されます。

Step2 へ進む

STEP 2：Sync モードの選択

この段階でシステムはソースによって創り出されるクロックにロックしています。1394 または SDIF インターフェイスをご使用の場合には、DAC はトランスポートによって創り出されるワードクロックとロックしています。これは最も単純なセットアップですが、クロックジッターによってベストの音質が得られる状態ではありません。

DAC をマスターモードで使う

パガニーニ・クロックをお持ちの場合は次のページに進んでください。パガニーニ・DAC をマスターモードで使用し、トランスポートをスレーブモードにすれば、システムのジッターを低減できます。

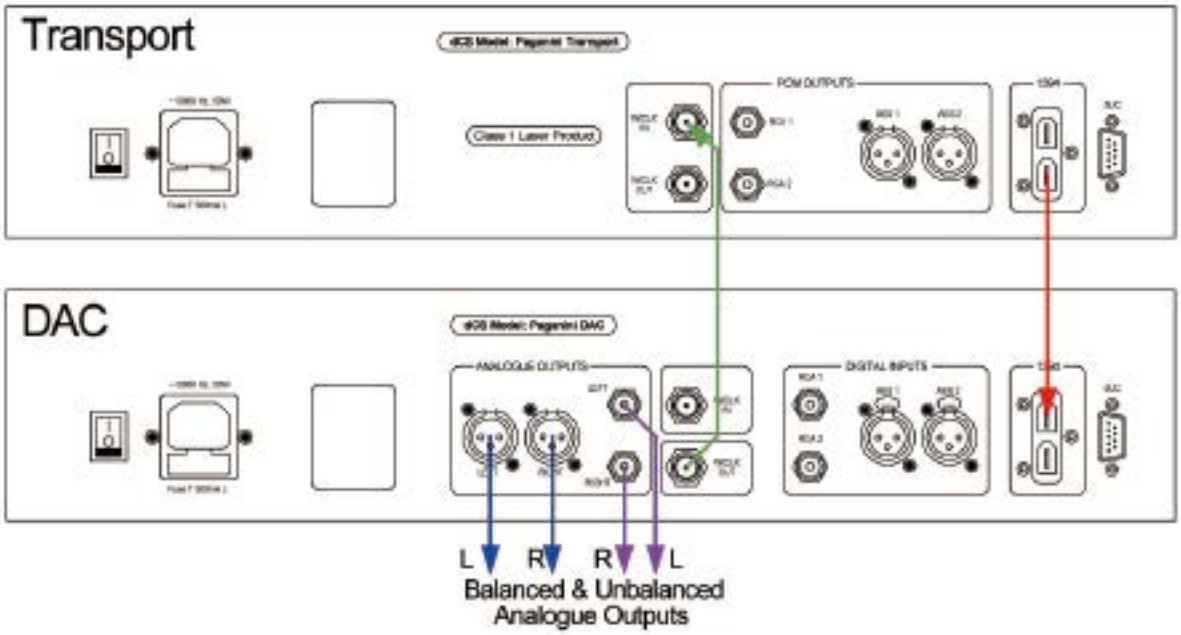


図 3：DAC をマスターモードで使う

・DAC の Input ボタンで必要な入力を呼び出します。
・DAC の W/CLK Out とトランスポートの W/CLK In とを接続します。
・DAC の Sync ボタンを使用して DAC を Master モードにします。システムは再ロックします。

マスタークロックを使用する

パガニーニ・クロックを追加することによって更にシステムの再生能力は高まります。

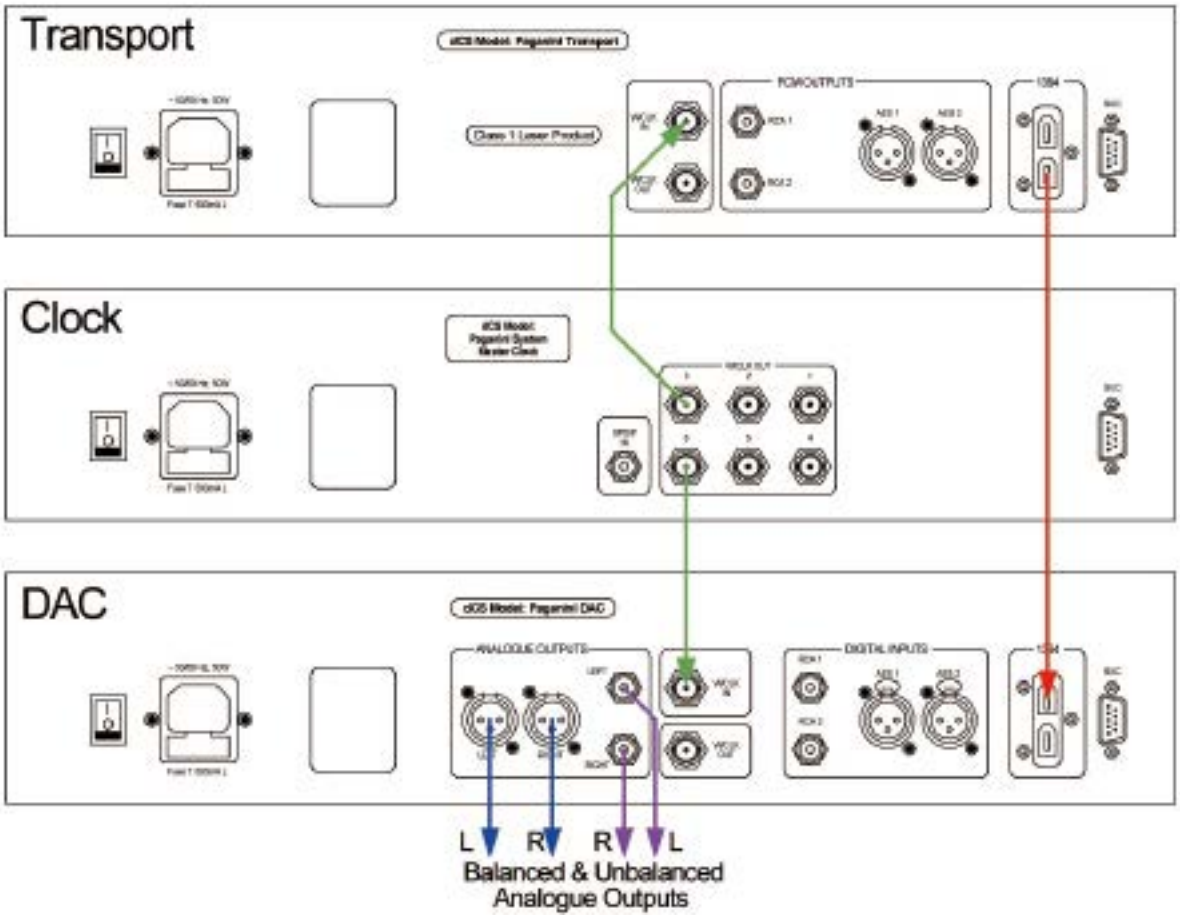


図 4：マスタークロックを使用する

・DAC の Input ボタンによって使用したい入力を選択します。
・クロックの W/CLK Outputs 6系統のいずれかと、トランスポート、DAC の W/CLK Input 端子を接続します。
クロックの出力端子はどれも同じです。
・クロックの Frequency（周波数）ボタンによってクロック出力周波数を 44.1kHz にセットします。
・DAC の Sync ボタンを使用して DAC を WClk モードにセットし、システムが再ロックするのを待ちます。

マスタークロックをご使用になる際には、クロックの取扱説明書もご覧下さい。

Step3 へ進む

STEP 3：ディスクの演奏

・■⏏ボタンを押す。

ディスプレイは OPEN と表示します。

・ラベルを上面にしてディスクをトレイに載せ、■⏏ボタンを押す。

ディスプレイは CLOSE と表示し、次に LOADING と表示します。CD もしくは SACD とディスクが識別され、トラック数、全演奏時間と共にディスプレイに表示されます。本機はハイブリッドディスクでは SACD 面を優先的に演奏するようディフォルトセットされています。メニューによって CD 層を選択することも出来ます。

・▶‖ボタンを押します。ボリュームを適当なレベルにします。

全てのディスクは、ディスクタイプと残り時間がディスプレイに表示されます。

・演奏中▶‖ボタンを押すと､ポーズ（一時停止）します。演奏に戻るにはもう一度このボタンを押します。
・▶|または|◀を押すと次の、または直前のトラックに飛びます。
・▶▶または◀◀ボタンを押すと、早送りまたは早戻しでトラックを演奏します。それ以上の速度で進めるには、もう一度押すと（speed 2）に、再度押すと（speed 3）になります。▶‖を押すと通常の演奏スピードに戻ります。
・■⏏ボタンを押すことによって演奏を停止します。もう一度押すとトレイが開きます。

STEP 4：その他の機能

リモートトランスミッターはトラック番号の選別、トラックまたはディスクのリピート、トラック番号のプログラムなどのコマンドができます。

例えばトラック 5 を選別する場合、5 のボタンを押し数秒待つか、あるいは 0、5 と続けて押すことによって、トラック 5 が演奏されます。後者の方法が早くアクセスできます。

Repeat ボタンを何回か押すことによって演奏中のトラックがリピートされます。

Repeat track：演奏中のトラックをリピート演奏

Repeat Disc：演奏中のディスクをリピート演奏

Repeat Off：通常のオペレーションとなります。

ディスクの演奏を止め、Program ボタンによって演奏するトラックの順番を設定します。次に、演奏順にご希望のトラック番号を押していきます。番号は 2 桁の番号を押すことを推奨します。

例えば、Program、05、04、06、Play と押せば、トラック 5、トラック 4、トラック 6 と順番に演奏します。本機は 6PGM3 と表示します。6 は選択された最終トラック番号で、3 は順番に選択されたトラックの総数を表します。最後のトラックを消す場合には Clear ボタンを押します。（この例ではトラック 6）ディスプレイは 4PGM2 と表示します。Program をもう一度押すとプログラムモードのキャンセルになります。本機は Program Off と表示します。CD トレイを開けることによってもプログラムモードのキャンセルになります。

演奏を終了する場合は、Power ボタンを一度軽くことによってスリープモードにするか（本機はあたためられた状態です）または、パワーボタンを Power down と表示するまで押し続ければパワーオフとなります。

フロントパネル

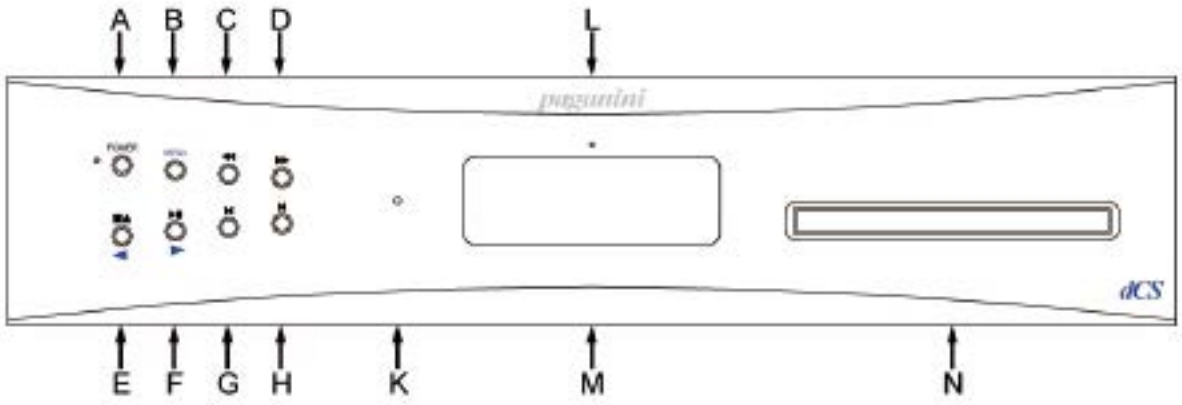


図 5：フロントパネル

(A) POWER ボタン

本機の電源を入れます。リアパネルのパワースイッチを I にセットし、このボタンを押します。オンオフはリモートトランスミッターでは出来ません。

スリープモードにするには POWER ボタンを軽く押します。ディスプレイは消え、ボタンの上に位置する LED が点灯します。この状態で出力はミュートとなります。しかし、本機は作動状態に近い温度になっています。もう一度 POWER ボタンを押せば、作動状態になります。

スイッチオフにするには POWER ボタンをディスプレイが POWER OFF と表示するまで、約 5 秒押し続けます。

メニューが開いているときは、POWER ボタンによってメニューを閉じます。

(B) MENU ボタン

このボタンを押すことによってメニューが開きます。メニューページを選択しセッティングを変更します。18 ページのメニューセクションをご参照ください。

(C) ◀◀ (JOG BACK) 早戻しボタン

ディスクが演奏状態にあるとき、このボタンを押すと現在のトラックから早戻しします。もう一度ボタンを押すと速く早戻しされ（スピード 2）、さらにもう一度押すとより速く早戻し（スピード 3）します。4 度目にこのボタンを押すと通常のプレイモードに戻ります。トラック 1 のスタートに戻れば、プレイモードに戻ります。

(D) ▶▶ (JOG FORWARD) 早送りボタン

ディスクが演奏状態にあるとき、このボタンを押すと現在のトラックから早送りします。もう一度ボタンを押すと速く早送りされ（スピード 2）、さらにもう一度押すとより速く早送り（スピード 3）されます。4 度目にこのボタンを押すとプレイモードに戻ります。トラック 1 のスタートに戻れば、プレイモードに戻ります。

(E) ■ ▲ (STOP / EJECT) ボタン

STOP/EJECT ボタンによって演奏を止めることが出来ます。もう一度押しますと、CD トレイが開きます。更に押せば、CD トレイは閉まります。

メニューが開いている場合は、このボタンは←ボタンとして機能します。メニューページを戻していきます。

(F) ▶❚❚ (PLAY / PAUSE) ボタン

ディスクが読み取られた後、PLAY/PAUSE ボタンによって演奏を開始します。演奏中に押せばポーズ状態になり、更に押すと演奏状態に戻ります。

メニューが開いている場合は、このボタンは→ボタンとして機能します。メニューページを進めていきます。

(G) ⏮トラック戻しボタン

このボタンによって前のトラックに戻ります。またはディスクが演奏状態にある場合には、そのトラックの最初に戻ります。この機能はディスクがポーズ、または停止しているときに使用するのが便利です。

(H) ⏭トラック送りボタン

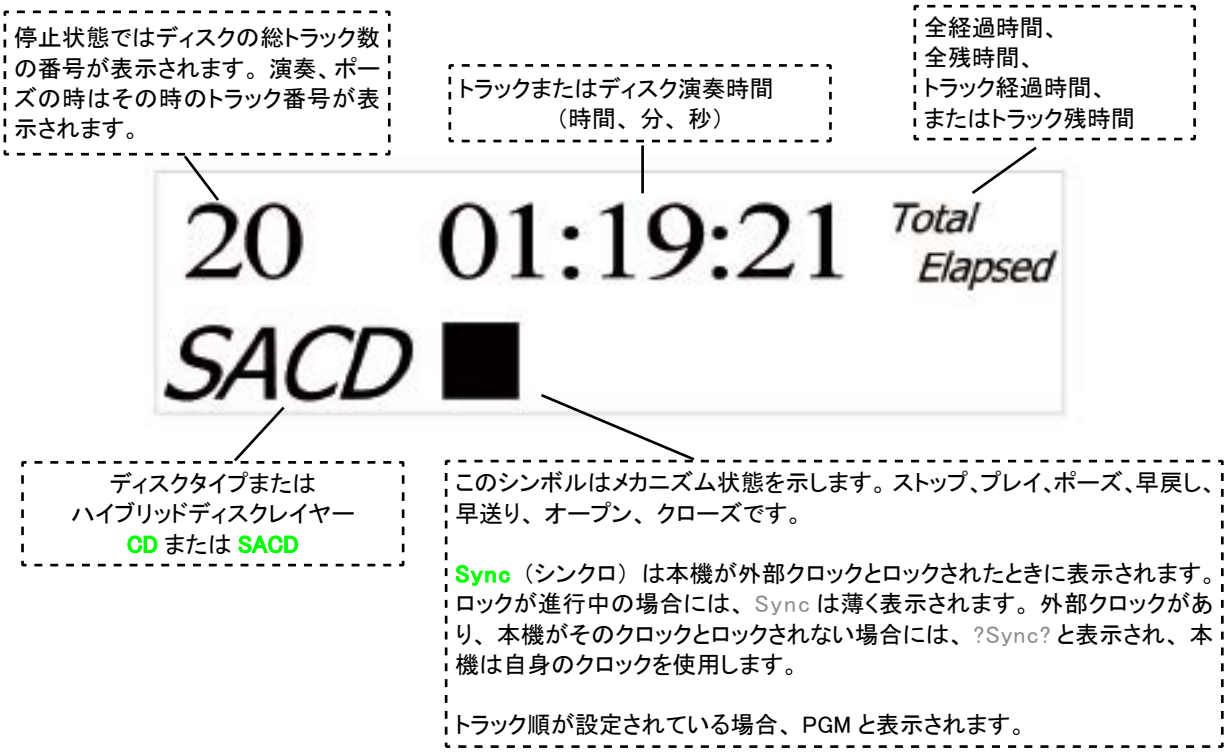
このボタンを押すことで、次のトラックに進みます。最終トラックの時に押した場合、トラック 1 に戻ります。

(K) リモートコントロールレシーバー

リモートトランスミッターをレシーバーへ向けて操作してください。

(M) ディスプレイ

通常の使用では、5つの部分に分かれます。



Display Settings の Display Off（ディスプレイオフ）によってディスプレイが消されているときにはディスプレイの上部にある LED が点灯します。

(N) CD トレイ

CD、SACD ディスクを載せるトレイです。ディスクを上向きで中心部に載せます。

リアパネル

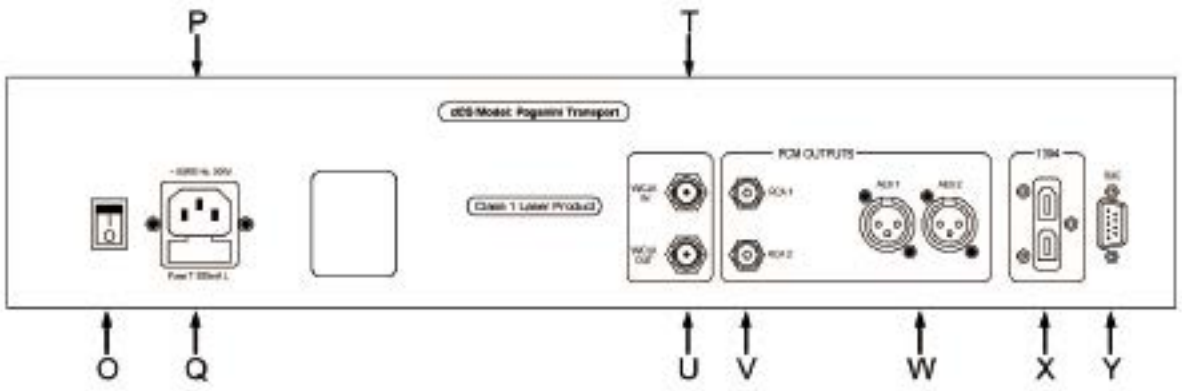


図 6：リアパネル

(O) パワースイッチ

(P) 電源プラグ入力
IEC320 標準コネクター用端子です。

(Q) 保護フューズ

(T),(U) Word Clock 入出力
W/Clk In（入力）端子 (T) は標準の 44.1kHz ワードクロックをマスターモードに設定された DAC、またはマスタークロックから受け取ります。本機が外部クロックにロックされたとき、Sync がディスプレイに現れます。クロックの動作が検知されたがロックできないとき (例えば、不適切な周波数レベル) には ?Sync? と表示され、本機は自身のクロックを使用して動作します。

W/Clk OUT（出力）端子 (U) は 44.1kHz ワードクロックを出力します。

ワードクロックは同期（シンクロ）させるために使われ、デジタルデータは扱いません。

PCM 出力

AES 1 、AES 2 出力 (W) はメニューページ Settings > Vivaldi Mode で設定できます。

Vivaldi Mode ヴィヴァルディモードオフに設定されると、二つの AES 出力は SACD, CD が演奏されていても 16/44.1 PCM データ出力として機能します。出力されるデータは同一のものです。デュアル AES ペアとしては動作しません。

Vivaldi Mode オンに設定した場合、二つの AES はデュアル AES ペアとして機能します。この場合、2つをペアとして一緒に使用します。dCS によって暗号化された DSD データを2つの 24/176.4 データストリームとして AES から出力します。このデータはネーティブ DSD データです。リパックされただけで、PCM データとして変換されたものではありません。

この機能はヴィヴァルディ DAC, パガニーニ DAC v1.30, スカルラッティ DAC v1.30 と使用するために設定されました。上記以前のヴァージョンでは使用できませんのでご注意下さい。(DAC のアップデートが必要です。)

CD 又はダウンサンプルされた SACD の演奏時 2 つの同軸 SPDIF 出力、RCA1 & RCA2（V）は 16/44.1 は PCM データを出力します。ヴィヴァルディモードが設定されてい手、そのときに SACD を演奏した場合には何も出力されません。

1394 インターフェィス

どのフォーマットが各出力から利用できるかは、以下の表の通りです。これは、ヴィヴァルディモードがオンに設定されているか、そして演奏するディスクによって変わってきます。（X）

Vivaldi Mode	Disc type	1394	AES1 & AES2	SPDIF & SDIF-2
OFF	CD	DSD	16/44.1	16/44.1
OFF	SACD	DSD	16/44.1	16/44.1
ON	CD	DSD	Dual DSD	16/44.1
ON	SACD	DSD	Dual DSD	No data

（Y）SUS 端子

RS232 インターフェイス。主に検査のためのオートテストに使用します。

リモートコントロール

リモートトランスミッターの上部は主に DAC に使用します。トランスポートには下の部分を使用します。

スリープモードにするには Sleep ボタンを約 2 秒間押し続けます。もう一度 Sleep ボタンを押すと通常の動作に復帰します。
スリープモードにおいて、OFF ボタンによってシステムをオフにします。

Upsampler Input ボタンはアップサンプラーの入力を選択します。同様に Upsampler Output ボタンはアップサンプラーの出力サンプルレートを選択します。
フィルターボタンは DAC のフィルターを設定します。

Filter ボタンは DAC のフィルターを設定します。

Balance ボタンは DAC のボリューム、バランスの調整モードを交互に設定します。

AES1 ボタンは DAC の AES1 入力を選択します。AES3 ボタンは DAC の AES3 入力を選択します。

Input+, Input- ボタンは DAC の利用できる入力を循環します。

Vol+, Vol- ボタンは DAC のボリュームとバランスを調整します。

Program、Clear ボタンは 0 ― 9 までのボタンと使用し、トランスポートのトラック順序を設定または変更するために使用します。

Stop/Eject, Play/Pause, Previous Track, Next Track, Jog Back, Jog Forward ボタンはトランスポートのフロントパネルにあるボタンと同様に作動します。

Repeat ボタンはトランスポートに対して Repeat 1（今聴いているトラックをリピート）、Repeat(ディスク全体をリピート)、Repeat Off と循環します。

Display ボタンはトランスポートのタイムディスプレィを次の順で変換します。
トラックの経過時間、トラックの残り時間、ディスクの経過時間、ディスクの残り時間。

システムが完全にオフとなった場合には、システムを起動するにはフロントの Power ボタンを押して、起動させます。この作業はリモートコントローラーでは出来ません。OFF ボタンはシステムがスリープモードの時にのみ使用できます。

一つ以上の 1394 ソースが接続されているときは、リモートボタンは第一のソースを選択します。リモートの入力＋（Input +）ボタンによって他のソースを選択して下さい。

ソフトウェアーメニュー

メニューを進めるには Step > を押し、戻るには、< Step を押します。
メニューオプションを設定、変更するには Select を押します。

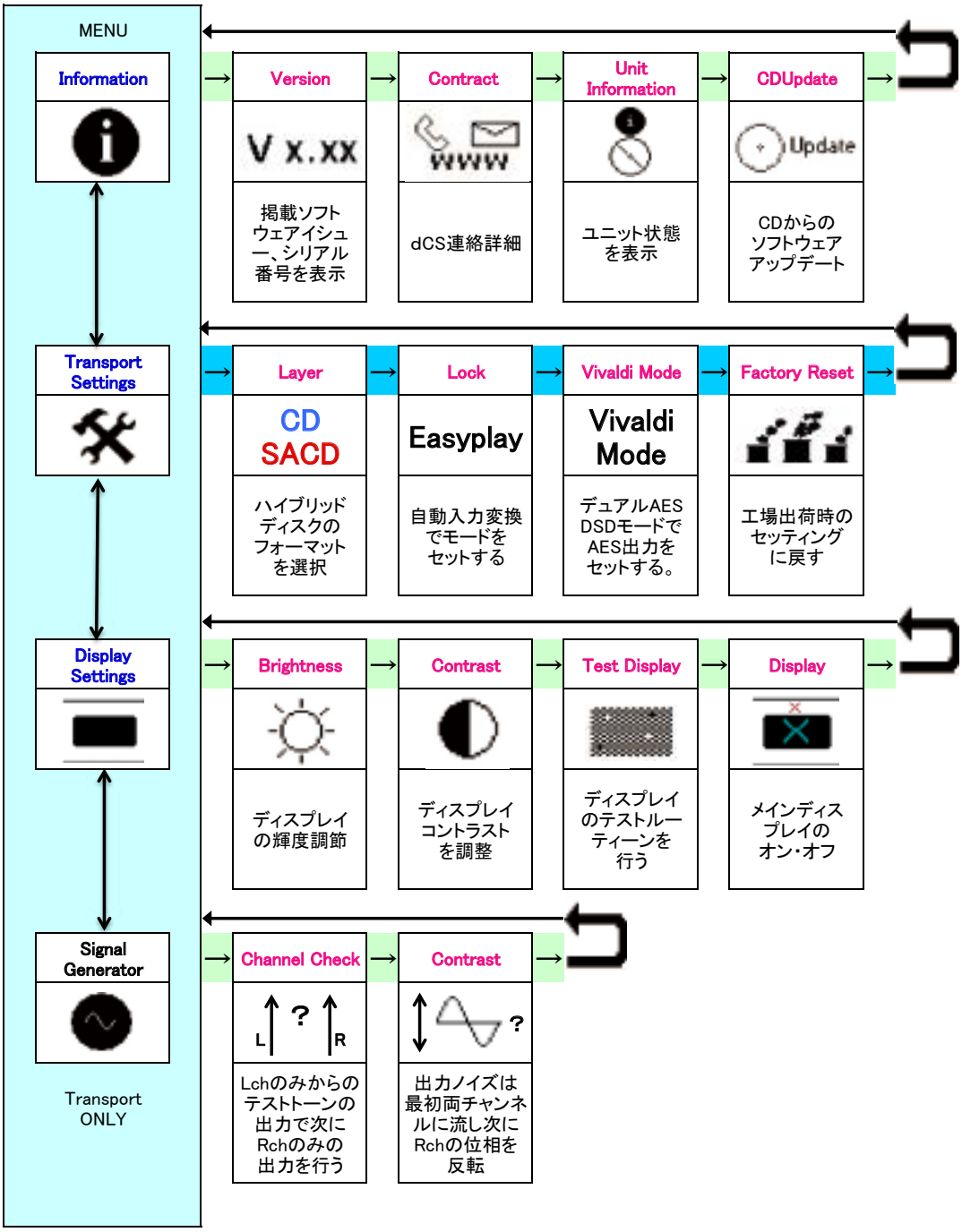


図 7：ファンクションメニューのフローチャート

メニューの使用

メニューは様々な機能にアクセスすることが可能です。また、新しいバージョンのソフトウェアにアップグレードを行うことによって、新機能を追加することが出来ます。

メニューは 4 つのボタンによって操作します。

- MENU ボタンでメニューを開く、またはセッティングを選択
- →▶‖ボタンによってメニューのページめくり
- ←■▲ボタンによってメニューのページ戻り
- POWER ボタンによってメニューを閉じる、または5秒でタイムアウト

リモートコントロールによってメニューにアクセスも出来ます。

本機には4つのトップメニューがあります。

INFORMATION メニュー

ソフトウェアイシュー番号、シリアル番号、連絡詳細、ソフトウェアアップデート

SETTING メニュー

異なるセッティングを行うメニューで、フロントパネルから直接アクセス出来ないセッティングを行えます。

DISPLAY SETTINGS メニュー

ディスプレイの調整

SIGNAL GENERATOR メニュー

テスト、セットアップ確認事項を含んでいます。

→ボタンによって希望のメニューに移動することが出来ます。希望のメニューに移動したら MENU ボタンを押します。表示されたメニューを選択し、更に→ボタンによってページを早送りできます。MENU を押すとそのページにおいてのセッティングを行えます。

戻りのアイコン によって直前のメニューレベルに戻れます。

INFORMATION メニュー

Version（バージョン）ページでソフトウェアバージョン、フルシリアル番号を表示します。サービス、販売店にご連絡の時はこの番号をお知らせください。

Contact（連絡）ページ。dCS ウェブサイト URL、e メール、電話、ファックス番号を表示します。

Transport Information（トランスポート情報）ページで、ご使用機器の状態を表示します。

- Area : No disc/CD/SACD
- W/clk In: Inactive（動いていない）/ 44100/88200/176400
- I/F version: x.xx
- B/E version: x.xx
- F/E version: x.xx

→←ボタンによってリストをスクロール、MENU ボタンによって戻ります。

CD Update（CD アップデート）ページはソフトウェアが新しくなったときに使用します。SACD を演奏中は CD アップデートはできず、アイコンはグレーになります。リモートトランスミッターでは操作が出来ませんのでフロントパネルにて使用してください。

誤って CD アップデートをしてしまった場合には、リアパネルのスイッチによって電源を切り、10 秒ほど待ってから再び電源を入れてください。

TRANSPORT SETTINGS メニュー

Layer（レイヤー）ページはハイブリッドディスクを演奏するときに CD、SACD レイヤーを選択します。選択、使用しているレイヤーは濃く、他のレイヤーはグレーで表示されます。レイヤーを変更するにはディスクを再読込するので Please wait... と表示されます。数秒お待ちください。

ディスクのタイプを自動的に検出し、適切な DAC の入力を自動的に選択します。本機の電源が入っているときに、トランスポートは CD, SACD 用にセットアップされた接続を検証します。

- Easy Play Off : 自動選択スイッチを動作停止にします。DAC の入力を演奏するディスクに合わせて選別しなければなりません。
- Easy Play Full : CD、SACD 演奏にかかわらず DAC とは 1394 で接続します。
- Easy Play SACD : SACD 演奏時に 1394、CD 演奏時に PCM 入力を自動選択します。

Easy Play は 1394 インターフェィスでのみ作動し、AES 出力がヴィヴァルディモード（ Vivaldi Mode ）に設定された場合には作動しません。

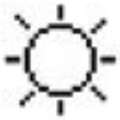
ヴィヴァルディモードページは AES 1, 2 の出力を設定します。
オンに設定すると出力はデュアル AES ペアとして動作し、dC Sによる暗号化されたDSDデータを出力します。このモードの場合は、AES1,2 は一緒に使用されねばなりません。

ヴィヴァルディモードをオフに設定した場合。AES 出力はシングルAESとして作動します。2つの出力とも、演奏ディスクが CD, SACD であっても、同じ 16/44.1 PCM データを出力します。この場合には、デュアル AES ペアとしては使用できません。

Factory Reset メニューは工場出荷時の標準セッティングにリセットします。

- Layer : SACD
- Vivaldi Mode : Off
- Display : On
- Contrast : 40%
- EasyPlay : Full
- Brightness : 最大輝度
- Repeat : Off
- Programmed sequences cleared

DISPLAY SETTINGS メニュー



Brightness（輝度）をお好みの輝度に設定します。

ディスプレイの Contrast（コントラスト）をお好みのレベルに設定します。

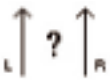
Display Test（ディスプレイ標準テスト）を行います。（メインディスプレイとインジケーターを点滅させる）

ディスプレィ オン、オフ（Display On / Off）メニューページはディスプレィ LED をコントロールします。

このページを一度選択するとメニューがタイムアウトされた後にディスプレィは消されます。ディスプレィの上にある青色 LED が点灯し、ディスプレィが消されている状態を示します。コントロールを回転させて作動させると、ディスプレィはそのときに少しの間だけ戻ります。

このページを2度選択するとディスプレィを消している LED をも、タイムアウトの後に、点灯しなくします。このページをもう一度選択するとディスプレィは元の状態に戻ります。

SIGNAL GENERATOR メニュー



Channel Check : 左右チャンネルの接続が正しいかチェックするために行います。ディスプレイが Left（左）と表示している間は左チャンネルのみ出力され、Right（右）と表示している間は右チャンネルのみ出力されます。

Phase Check : 位相が正しく設定されているかチェックするために行います。In Phase（正相）と表示している間は両チャンネルから正相のノイズを発します。MENU ボタンを押すと右チャンネルのノイズが反転し逆相となります。その間ディスプレイは Out of Phase（逆相）と表示されます。最初のノイズは中央のイメージング。二回目は中央イメージングではありません。→または←ボタンを押してテストを終了しメニューに戻ります。

メンテナンス

dCS のオーディオ機器は特に定期的なメンテナンスを必要としません。
全てのサービスおよびアップグレードは dCS 社または当社のみが行います。

ヒューズの交換

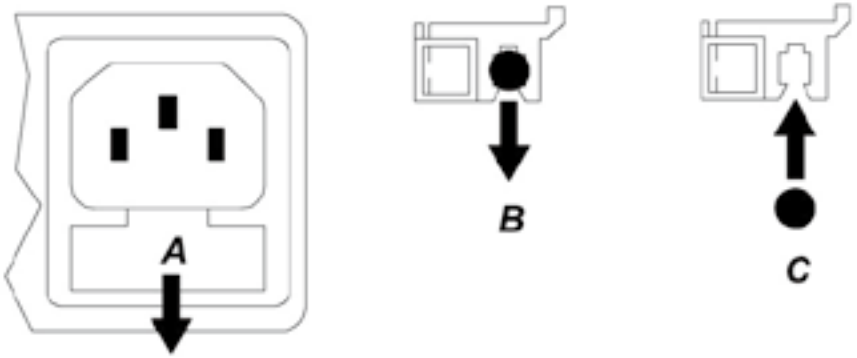


図7：ヒューズの交換

電源ソケットの下にあるヒューズ・ホルダー内にヒューズがあります。ヒューズが飛んだ場合、ヒューズが飛ぶような要因となる障害がないか、まず確認してください。もし障害があるようであれば、まずその障害を取り除いてください。もう障害がないと考えられた段階でヒューズを交換し、再度電源を入れてみてください。
（20×5mm 0.5A ＴＬヒューズ）

もし連続して飛ぶようであれば、不具合の可能性がありますので直ちに使用を中止し、お買いあげのオーディオ販売店か当社までご連絡下さい。

重要：ヒューズが飛んだときは、必ず同じタイプの物と交換してください。異なるタイプの物と交換することによって製品にダメージを与えたり、引火したり、電気ショックの原因になったりすることがあります。このような場合保証の対象とはなりませんので、ご注意下さい。

ヒューズを交換する

ヒューズを交換するとき、まず電源ケーブルを抜き、小型のマイナスドライバーでヒューズ・ホルダーのタブ（A）を引っ張り出します。ヒューズ・ホルダーのクリップから飛んだヒューズ（B）を押し出し、新しいものに交換（C）してください。ヒューズ・ホルダーを本機にカチッと音がするように戻してください。スペアのヒューズは製品に同梱されています。

重要：ヒューズを交換する前に電源を切り、電源ケーブルを抜いてから行ってください。

保証

当社はお買い上げ時より一年間、本機の不良または正常なご使用状態で起きた故障等は保証書記載事項に基づき、無償修理いたします。

以下の場合には保証が適用されませんので、ご注意ください。

・いかなる場合でも本機が誤って使用された場合。
・dCS、当社以外の手によって改造や修理が行われた場合。
・取扱説明書の使用環境に従っての使用がなされていない場合。
・グランド電源を使用しない場合。
・不適切な梱包によって返送された場合。

問題が発生した場合にはモデル名、フルシリアル番号、ソフトウェアバージョン、問題点の出来るだけ詳しい内容を販売店、または当社にお知らせください。修理のためご返送いただく場合には、オリジナルの梱包が安全ですので、梱包材はお手元に保管ください。梱包材が無い場合には有償でお貸し出しいたします。

使用環境

・リアパネルに表示してある電圧（100v）の ±10%。
・交流電源 49 ～ 62 サイクル
・使用温度　0℃～ 40℃
・以下に述べる機器近辺に設置しないこと：暖房機、空気ダクト、パワーアンプ、直射日光
・ご心配の点があれば簡単なテストとして、本機は人間が快適な環境であればまず間違いなく動作します。

ソフトウェア・アップデート

dCS の製品は必要に応じてソフトウェア・アップデートのサービスを行っております。
ソフトウェア更新の際にはご登録いただいたユーザーの方へ郵送にてご案内させていただいておりますので、ユーザー登録を行っていただきますようお願いいたします。
ソフトウェア・アップデートについてご不明な点がございましたら、弊社までお問い合せください。

仕様

ドライブメカニズム	デュアルレーザー、SACD/CD メカニズム
ローディング方式	フロント・ローディング
デジタル出力	IEEE1394　2 系統 AES/EBU（XLR）2 系統 SPDIF（RCA）2 系統
ワードクロック入力	BNC　1 系統
ワードクロック出力	BNC　1 系統 マスターモードに設定時、44.1kHz クロックをクリスタル オシレーターから ±10ppm の精度で（温度補正無し）出力 この精度は通常数年間安定（但し数年の保証は対象外）
電源電圧	100V　50/60Hz
最大外形寸法	W 460 × D 420 × H113 mm
重量	11.5kg

※ 本機の仕様及び外観は改良のため予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。

問い合わせ先

株式会社太陽インターナショナル

〒 103-0027

東京都中央区日本橋 2-12-9　日本橋グレイス 1F

TEL：　03-6225-2777（代表）

　　03-6225-2779（サービス課）

FAX：　03-6225-2778

ホームページ：　http://www.taiyo-international.com

2014.5